

令和6年度市民アンケート調査結果

調査対象：委託したアンケート調査会社に登録されている市民 1,000人

調査時期：令和6年8月～9月

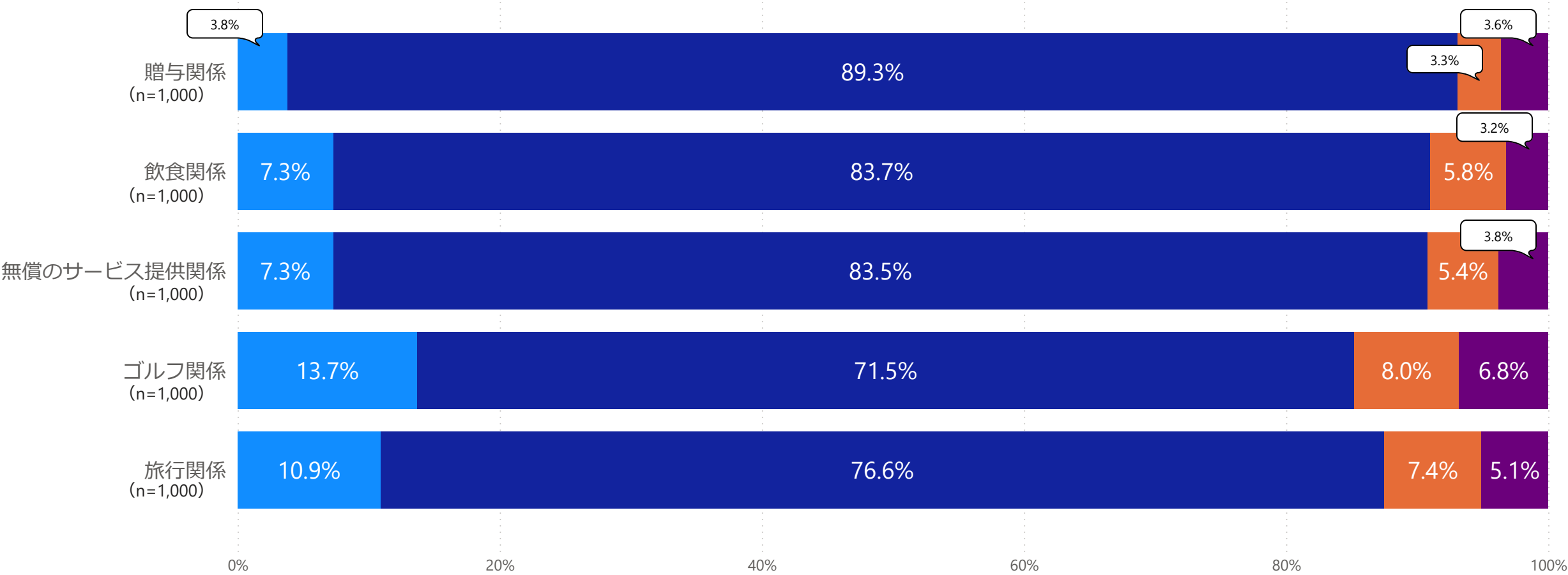
調査手法：Web調査

回答状況：回答者数 1,000人（昨年度1,000人）

※ n:有効回答者数(以下同じ)

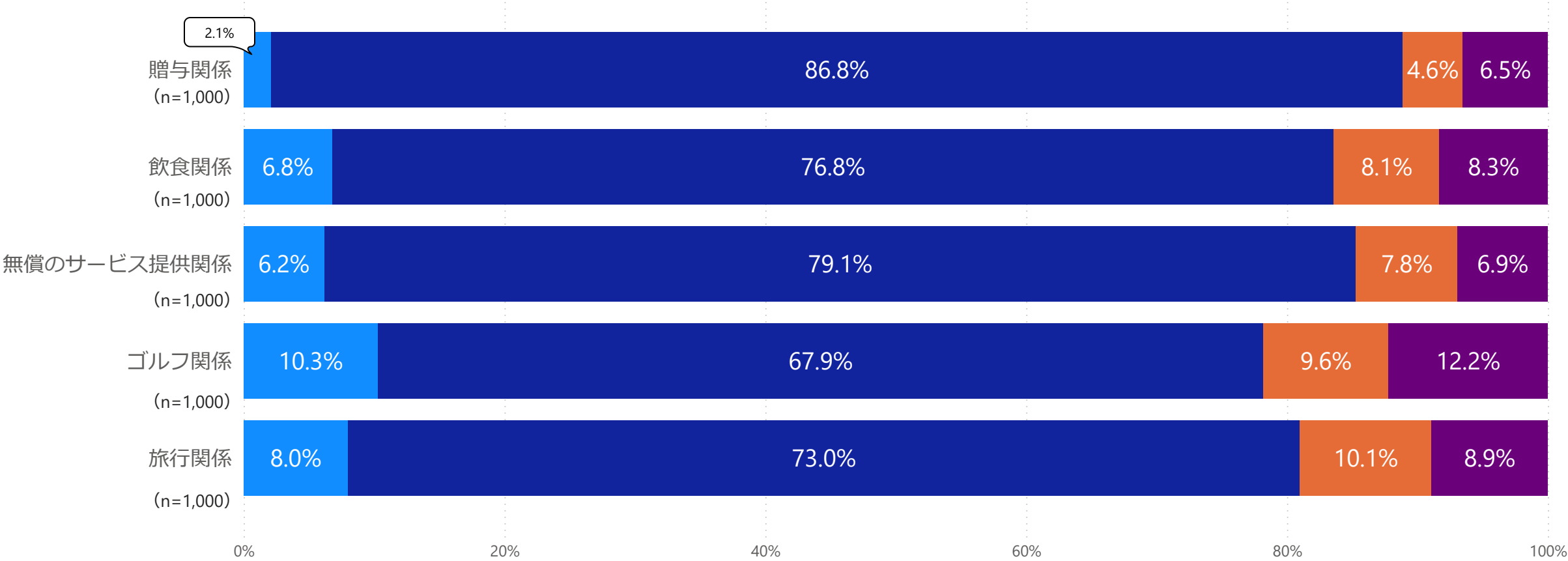
問1 倫理規程で定められている以下の行為規制についてどのように思いますか。
(R 6 年度)

1 厳しい 2 妥当である 3 緩やかである 4 分からない



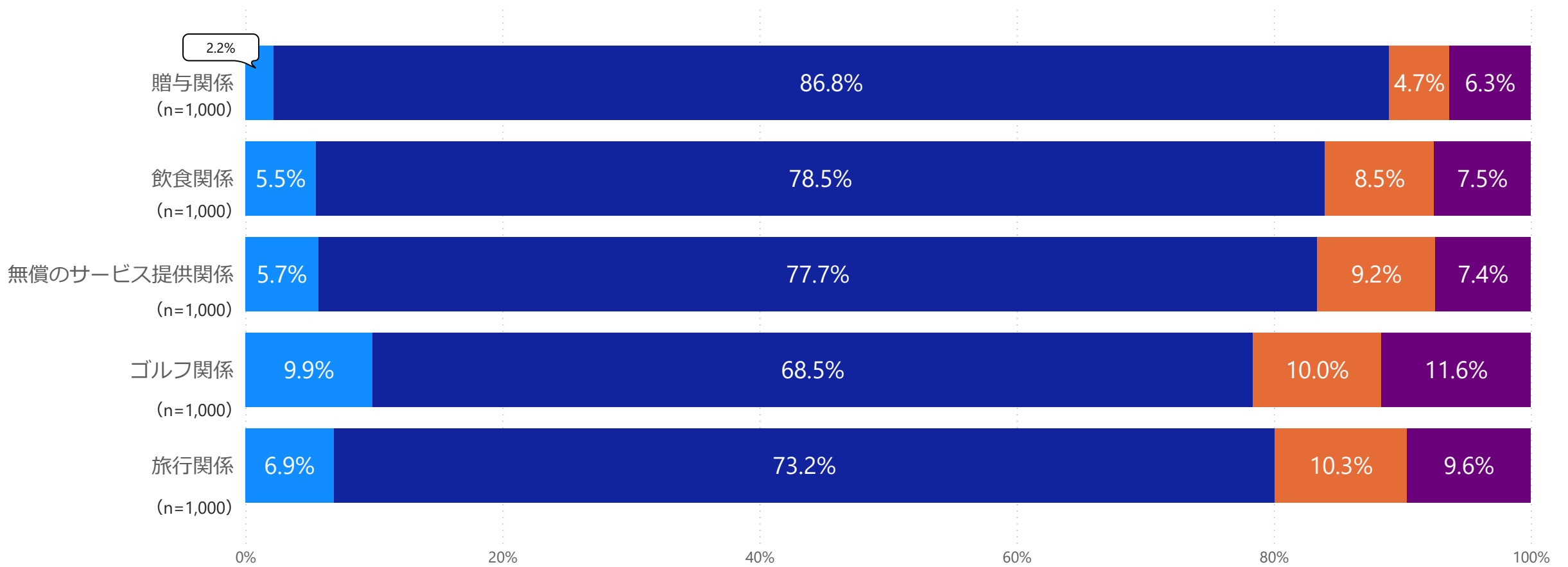
(R 5 年度)

1 厳しい 2 妥当である 3 緩やかである 4 分からない



（R 4 年度）

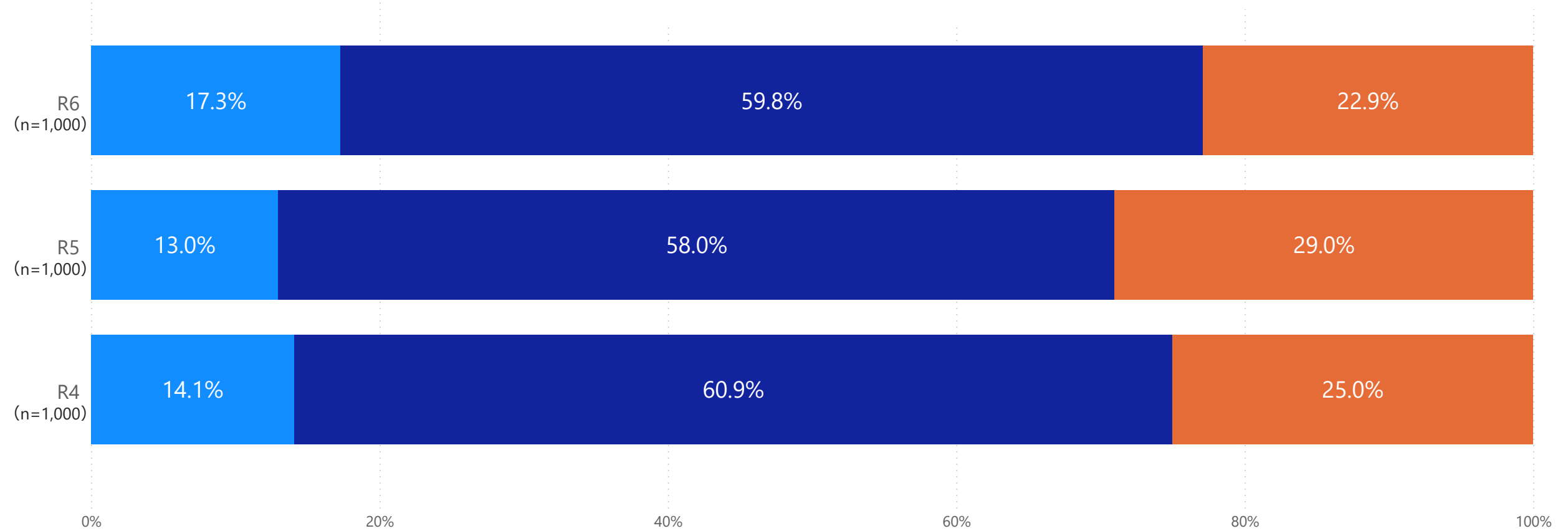
●1 厳しい ●2 妥当である ●3 緩やかである ●4 分からない



直近 3 年間を見ると、各規制について「厳しい」又は「妥当である」と回答した割合の増減幅はいずれの規制においても±6.9ポイント以下であり、「緩やかである」と回答した割合の増減幅はいずれの規制においても±3.8ポイント以下であった。

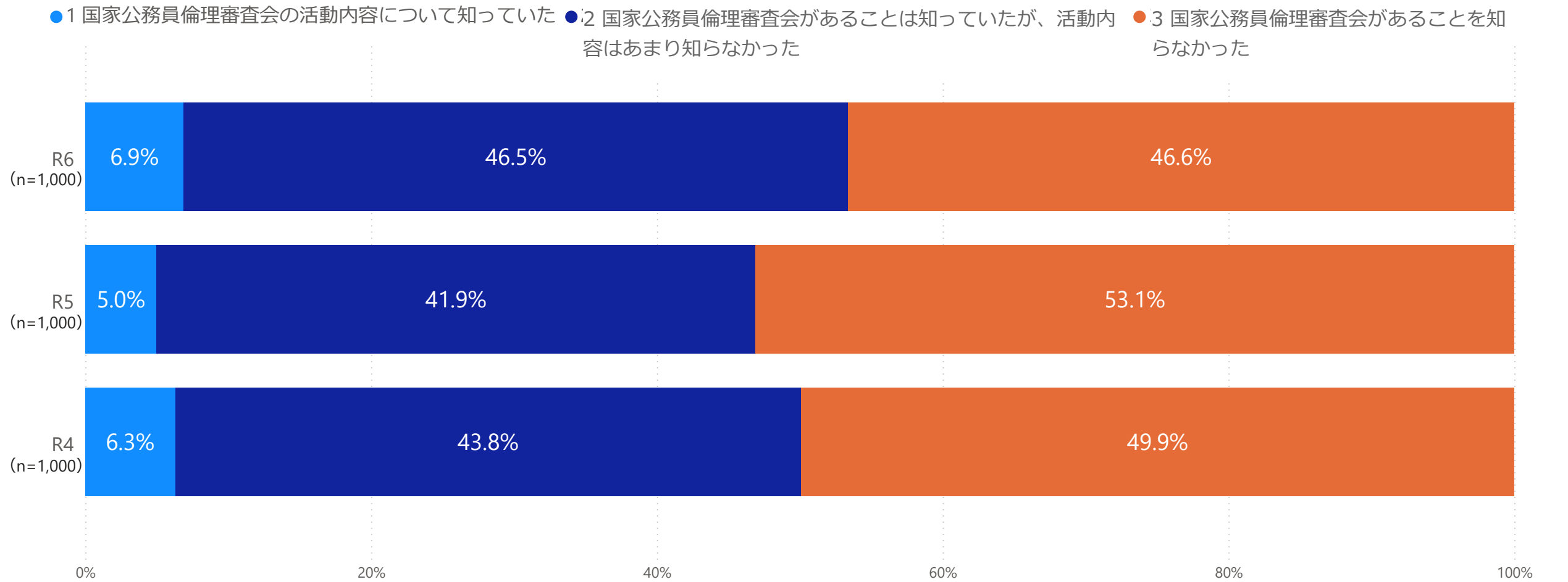
問 2 倫理法・倫理規程の存在あるいは内容について、これまで御存じでしたか。

●1 倫理法・倫理規程の内容について知っていた ●2 倫理法・倫理規程があることは知っていたが、内容はあまり知らなかった ●3 倫理法・倫理規程があることを知らなかった



直近 3 年間を見ると、「倫理法・倫理規程の内容について知っていた」と回答した割合は平均14.8%であり、その増減幅は±4.3ポイントであった。「倫理法・倫理規程があることは知っていたが、内容はあまり知らなかった」と回答した割合は平均59.6%であり、その増減幅は±2.9ポイントであった。「倫理法・倫理規程があることを知らなかった」と回答した割合は平均25.6%であり、その増減幅は±6.1ポイントであった。

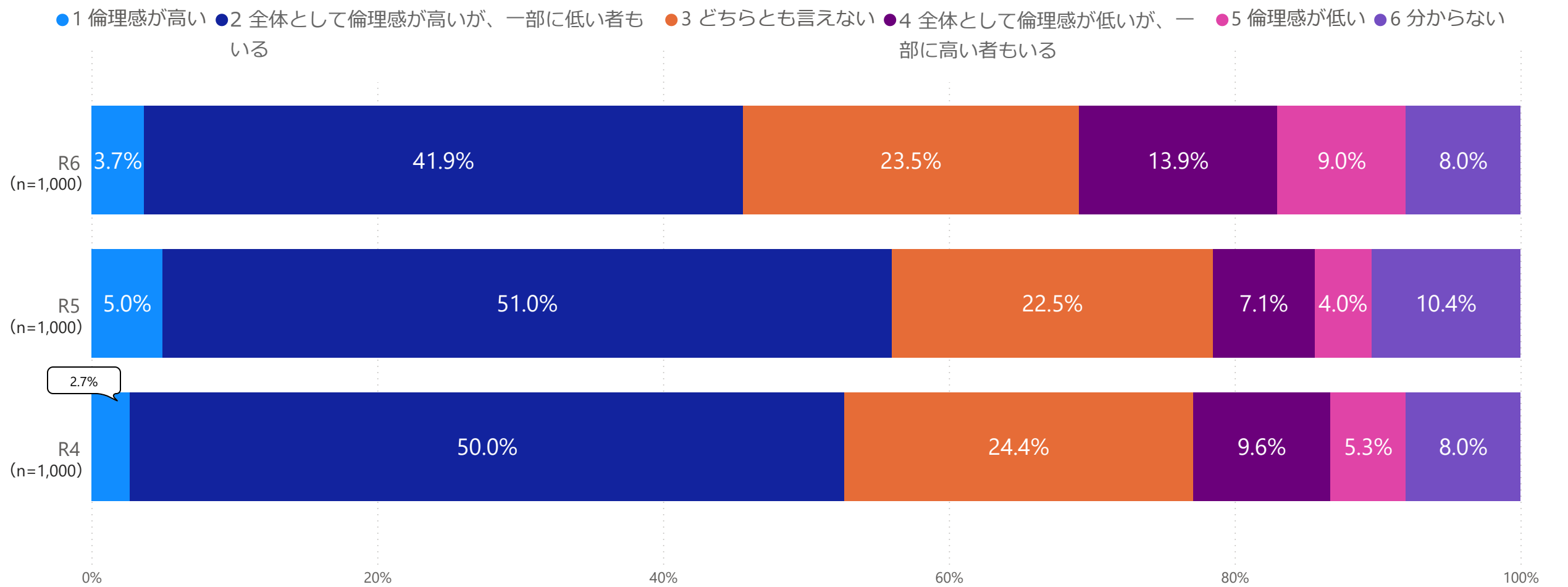
問 3 国家公務員倫理審査会の存在あるいは活動内容について、これまで御存じでしたか。



直近 3 年間を見ると、「国家公務員倫理審査会の活動内容について知っていた」と回答した割合は平均6.1%、その増減幅は±1.9ポイントであった。「国家公務員倫理審査会があることは知っていたが、活動内容はあまり知らなかった」と回答した割合は平均44.1%、その増減幅は±4.6ポイントであり、「国家公務員倫理審査会があることを知らなかった」と回答した割合は平均49.9%、その増減幅は±6.5ポイントであった。

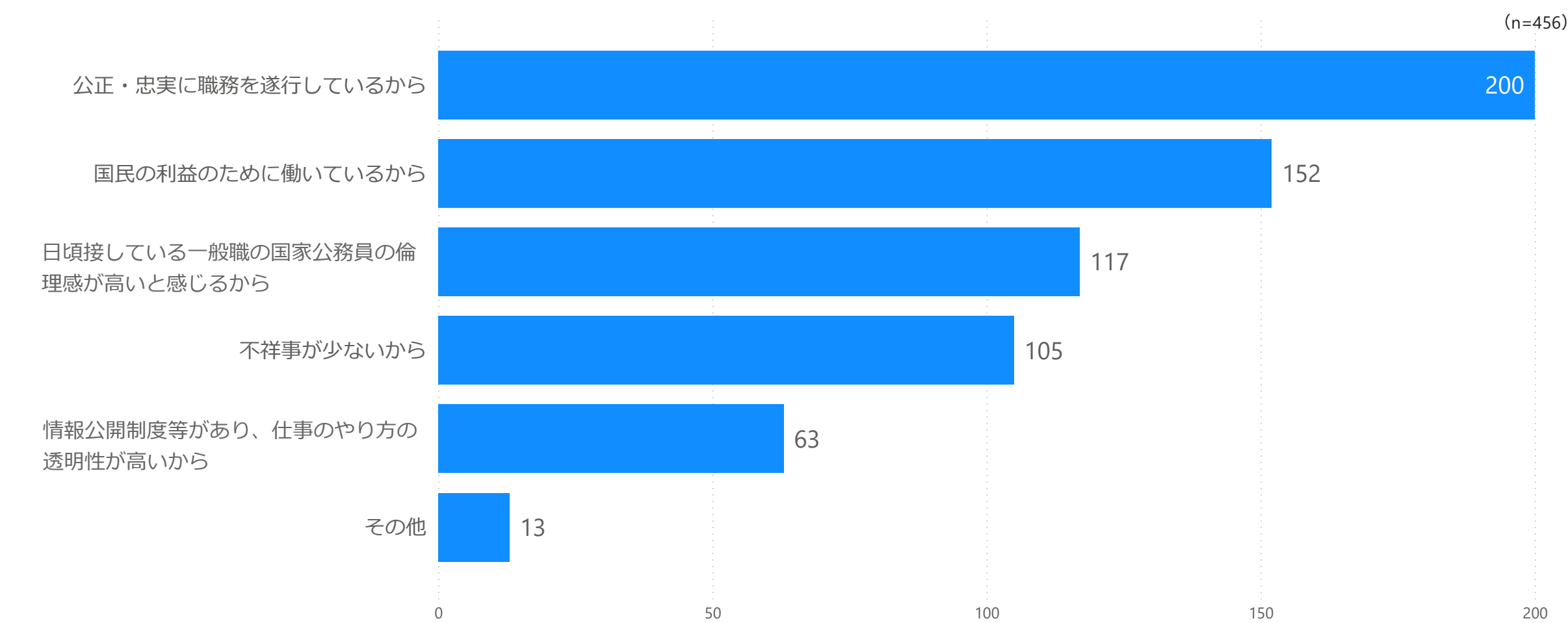
■一般職の国家公務員の倫理保持の状況に関して

問 4 一般職の国家公務員の倫理感について、現在、どのような印象をお持ちですか。



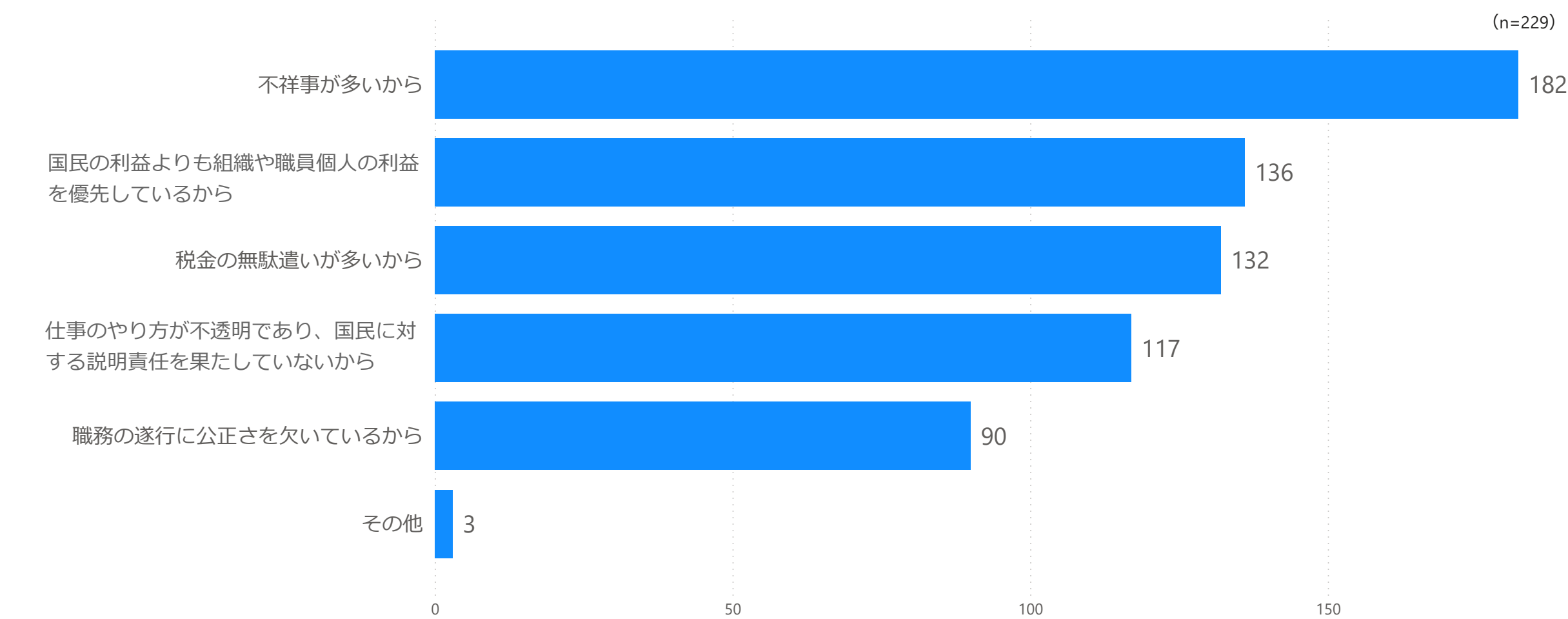
直近 3 年間を見ると、「倫理感が高い」又は「全体として倫理感が高いが、一部に低い者もいる」と回答した割合は平均51.4%であり、その増減幅は±10.4ポイントであった。「全体として倫理感が低いが、一部に高い者もいる」又は「倫理感が低い」と回答した割合は平均16.3%であり、その増減幅は±11.8ポイントであった。

○ 「倫理感が高い」又は「全体として倫理感が高いが、一部に低い者もいる」と回答した理由（複数回答）



「公正・忠実に職務を遂行しているから」を選択した回答者が最も多かった（例年同様）。

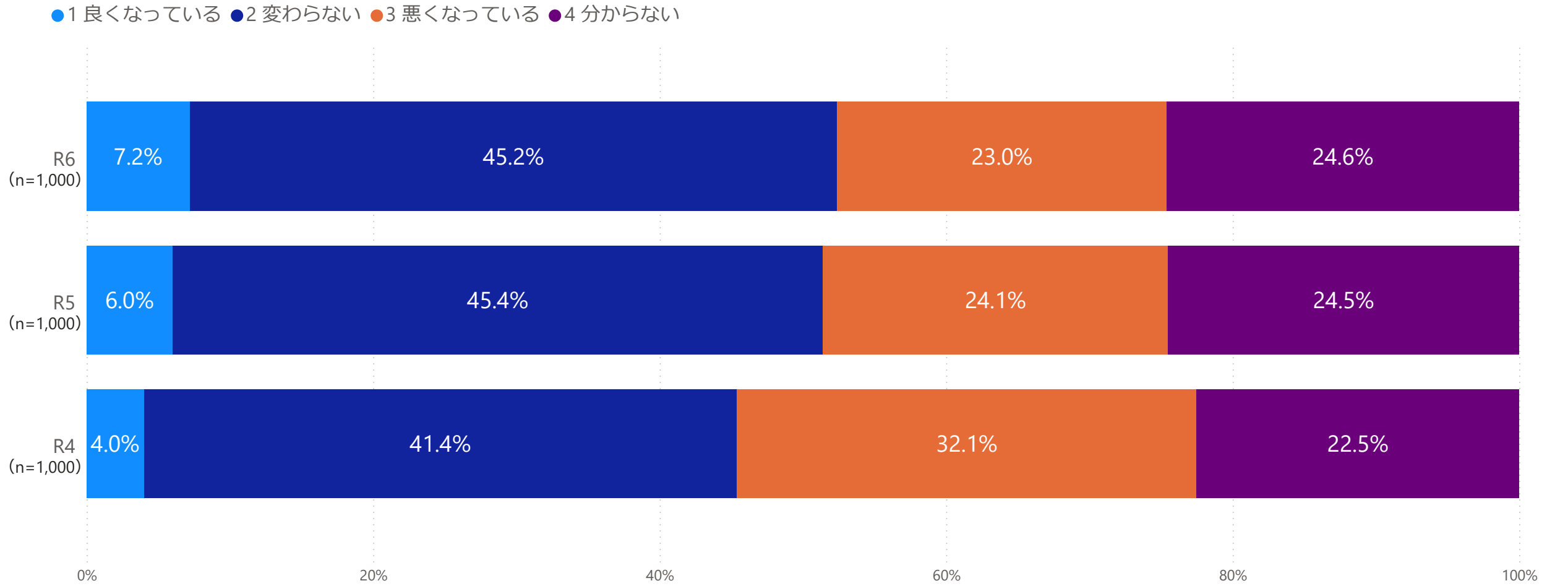
○ 「全体として倫理感が低いが、一部に高い者もいる」又は「倫理感が低い」と回答した理由（複数回答）



「不祥事が多いから」を選択した回答者が最も多かった（昨年度は「国民の利益よりも組織や職員個人の利益を優先しているから」が最多）。

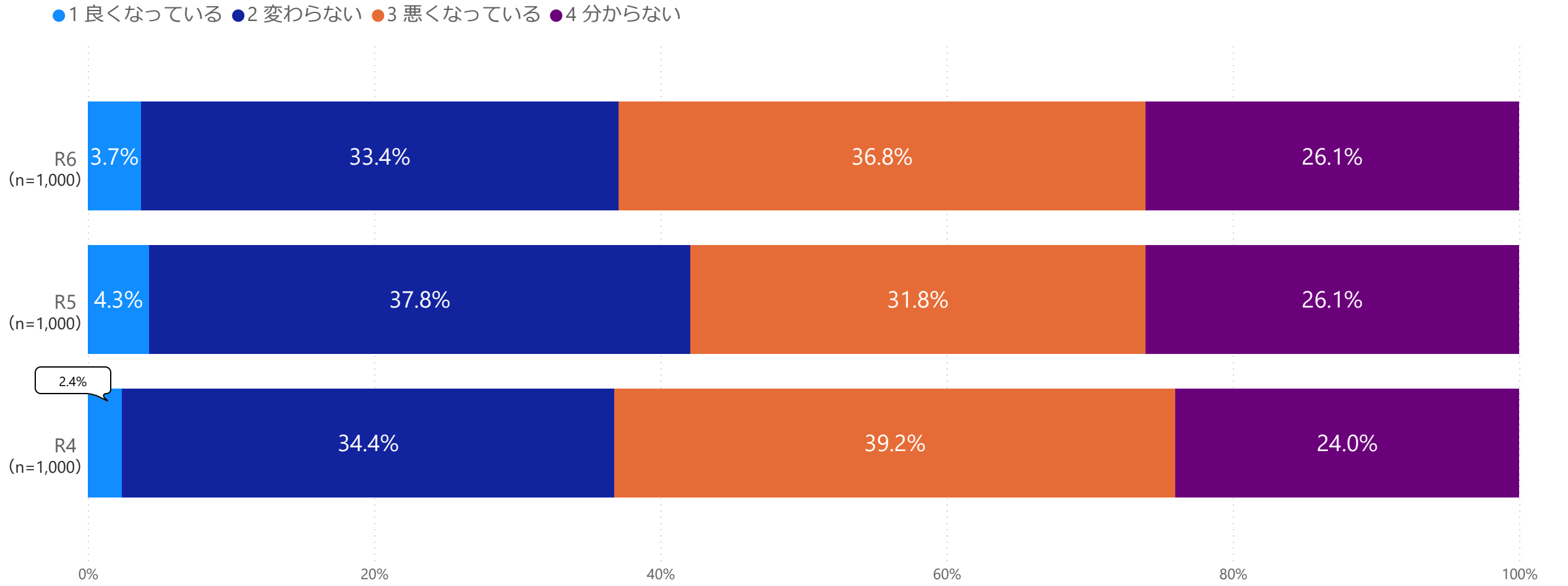
問 5 近年の一般職の国家公務員の職務に係る倫理の保持の状況をどのように思いますか。

○ 一般職員について



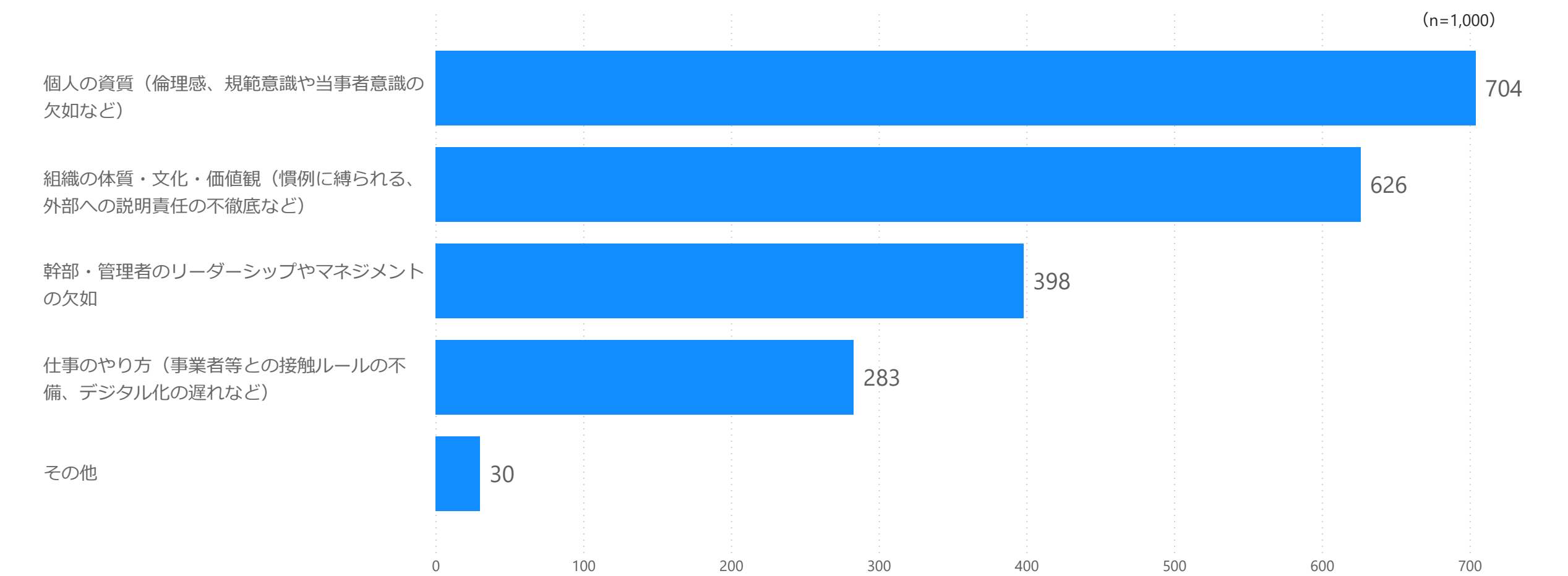
直近 3 年間を見ると、「良くなっている」と回答した割合は平均5.7%であり、その増減幅は±3.2ポイントであった。「変わらない」と回答した割合は平均44.0%であり、その増減幅は±4ポイントであった。「悪くなっている」と回答した割合は平均26.4%であり、増減幅は±9.1ポイントであった。

○ 幹部職員について



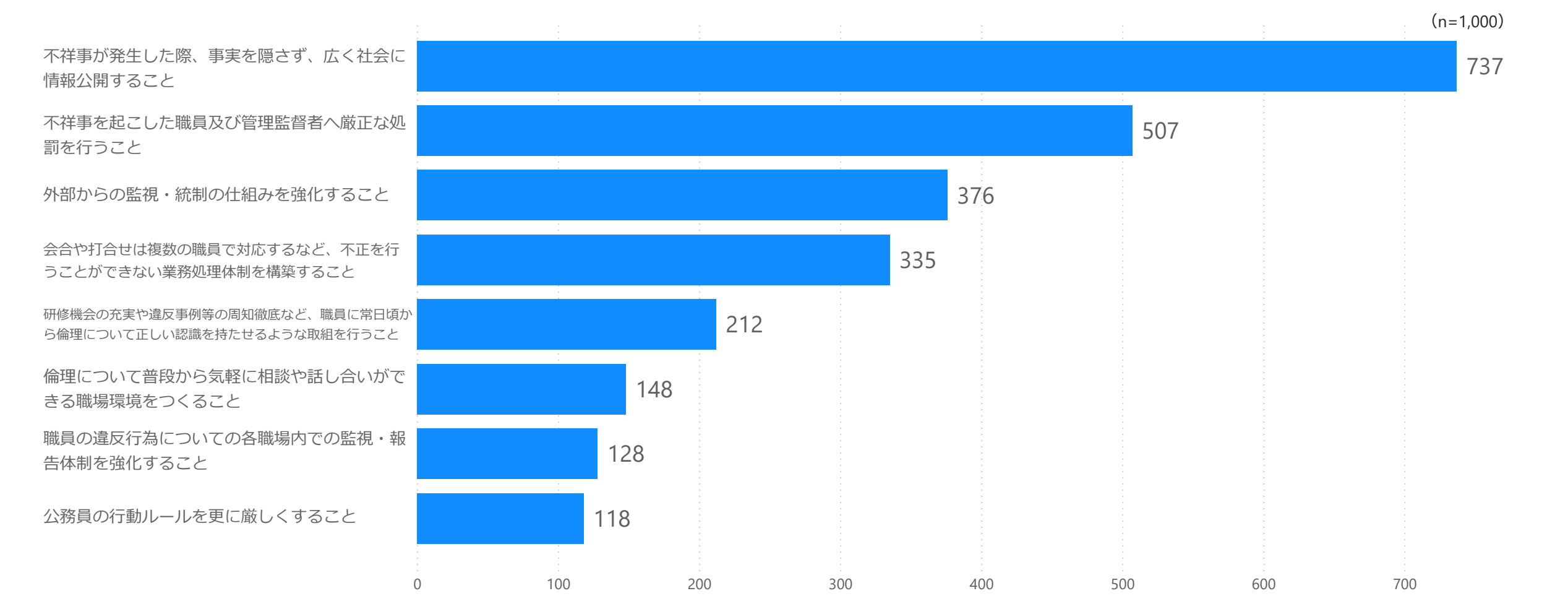
直近 3 年間を見ると、「良くなっている」と回答した割合は平均3.5%であり、その増減幅は±1.9ポイントであった。「変わらない」と回答した割合は平均35.2%であり、その増減幅は±4.4ポイントであった。「悪くなっている」と回答した割合は平均35.9%であり、増減幅は±7.4ポイントであった。

問6 近年の公務員による不祥事の原因は何だと思われますか。該当するものを全てお選びください。



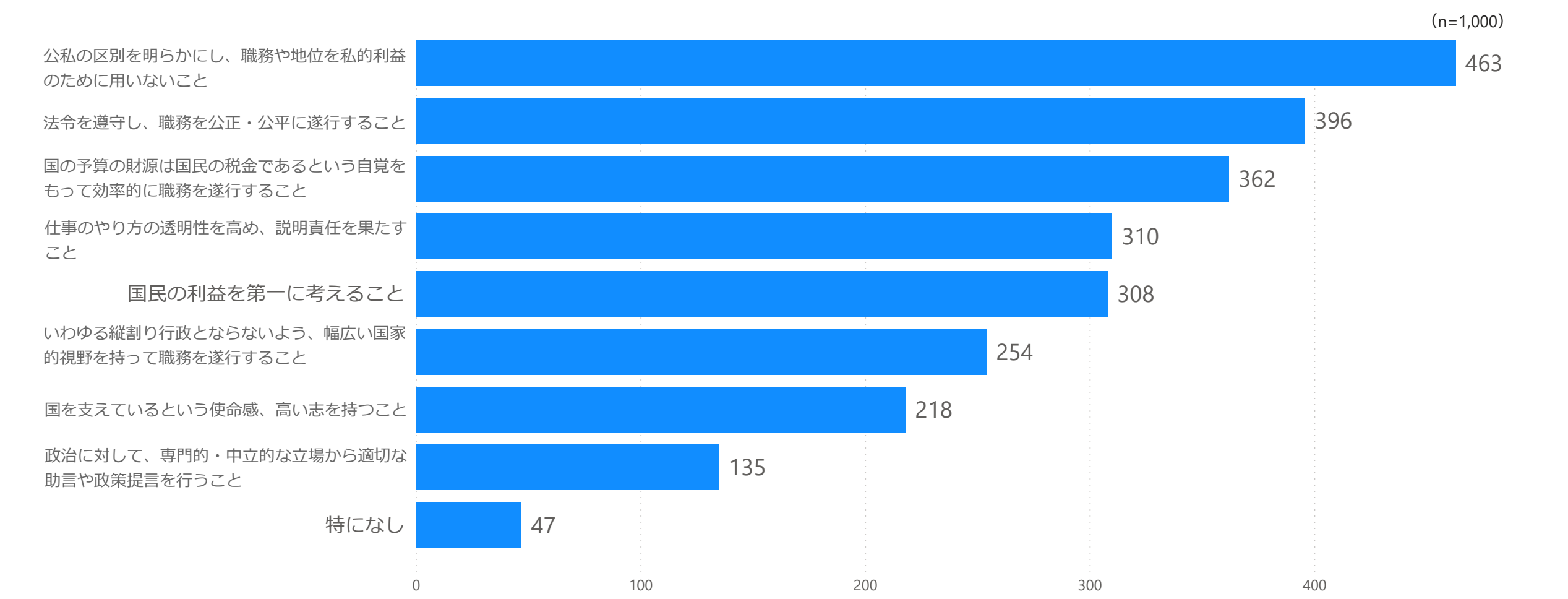
最も多かった回答が「個人の資質（倫理感、規範意識や当事者意識の欠如など）」（回答者の70.4%が選択）であり、「組織の体質・文化・価値観（慣例に縛られる、外部への説明責任の不徹底など）」（回答者の62.6%が選択）が次いで多い回答であった。「その他」の内容としては「民間と違ってノルマがない」、「給与水準が低い」などの回答があった（各選択肢全てが昨年度と同順位であった。）。

問7 公務員による不祥事が起きた際、信頼回復のために必要な行政の対応は何だと思われますか。特に必要だと思うものを3つ以内でお選びください。(複数回答)



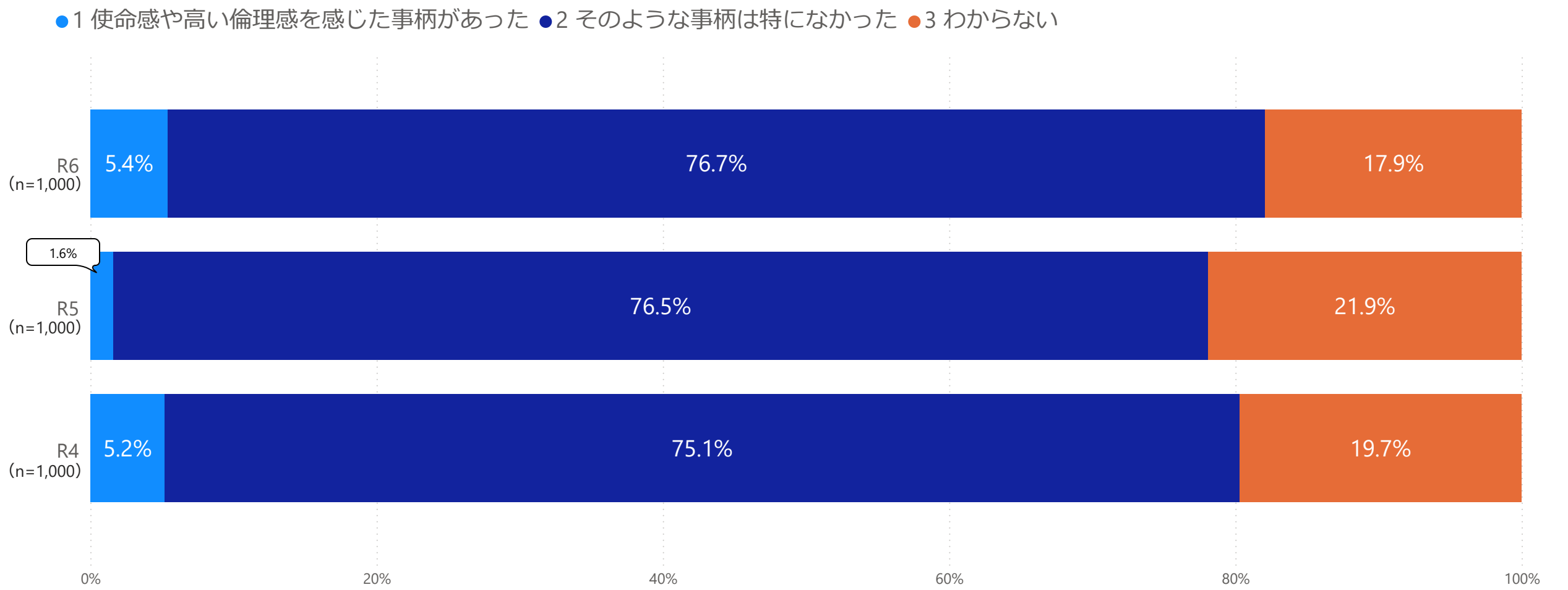
「不祥事が発生した際、事実を隠さず、広く社会に情報公開すること」を選択した回答者が最も多かった（例年同様）。

問 8 一般職の国家公務員の職務に係る倫理保持の現状を踏まえると、現在、一般職の国家公務員の姿勢として、特に不足している、あるいは更に求められると思うものを3つ以内でお選びください。(複数回答)



「公私の区別を明らかにし、職務や地位を私的利益のために用いないこと」を選択した回答者が最も多かった（例年同様）。

問 9 近年、マスコミ等で報道された、あるいは身近な場面で目にした一般職の公務員の活動・行動の中で、使命感や高い倫理感を感じた事柄はありますか。



直近3年間を見ると、「使命感や高い倫理感を感じた事柄があった」と回答した割合は平均4.1%、増減幅は±3.8ポイントであり、令和5年度が最も少なかった。その内容としては「災害救援活動」などの回答があった。「そのような事柄は特になかった」と回答した割合は平均76.1%であり、増減幅は±1.6ポイントであった。